



海のたより

佐久島へ向かうスピラン
赤いスピルが優勝した
スーパーウェーブ
写真はラピタ提供



目次	行事予定
表紙 佐久島レース	10月11日 JSAF デニスコーナーカップレース
P 2 佐久島レース優勝、スーパーウェーブ	10月17日 JSAF 三河湾周遊レース
P 3 スモールレース優勝、ホープ	10月10.11.17.18日 JSAF 東海チャンピオンシップ
P 4 スナメリ	10月25日 三河湾合同レース兼 MCC
P 5 会員艇紹介「アクアマリン」	11月15日 MCC 11月ポイントレース (合同)
	11月22日 スモールレース 11月ポイント



まさかの優勝

微風から中風での佐久島レース

SUPER WAVE・長坂 収



6月に続いてMCC早朝レースに参加し、今回はラッキーな風に恵まれて準優勝でしたが今回は最後まで手を抜かず頑張り見事優勝をして本当にうれしいです。

スタート時は超微風の中、参加各艇は苦労しながらスタートしましたが、リミットマーク寄りでは数艇がリコールした模様でX旗が掲げられる。セレスティーンがリコール解除のためにUターンしている。我々はハーバーの紅灯寄りでホーネットに続いてまあまあのスタートである。

今日のスーパーウェーブ（以後SWとします）のヘルムスマンはいつもの河村氏が所用のため乗れなく、急遽若干20才の僕の地元の碧南高校ヨット部出身の「横井」君にお願いした。クルーザーでのスキッパーは何と今日がデビューなんです。スタートして豊橋潮流ブイまで微風の中、苦労しながら風をつかもうと努力するがなかなか良い風がこない。そんな中ホーネットが良い風を拾いみるみる潮流ブイめがけて先行し始める。我々は無風の中、リコールを解消したセレスティーンやコミッティーで10分遅れのスタートをしたアルミスと一緒に四苦八苦である。



ダンシングとSW

スタートして1時間やっと南東の風が入り始め各艇スピンを展開し潮流ブイに向かう。先行したホーネット以外のレース艇はややだんご状態で潮流ブイを回航して佐久島へと向かう。SWはレーティング上では格上のD・ビーンズとスピスマッチをしながら互角の走りで佐久島に取りつく。

10:30頃生田鼻ブイを回航し帰りの豊橋潮流ブイへは上りの風になり、風も徐々に強くなり15ノットオーバーに、ゼノアをミディアムヘビーからNO.2に替えようと思いましたが、今日のSWの乗員は重量級の乗員に恵まれNO.1セールのみまですとにかく艇を起こそう、起こそうと努力する。

その甲斐あってか後続艇を徐々に引き離し、先行艇のホーネットに少しずつ近づいていく。生田鼻ブイ回航ではコミッティーで10分遅れのスタートをしたアルミスに先行されたのが、潮流ブイでは我々が先行しホーネットの後、2番手で回航できフィニッシュに向かう。フィニッシュまでの風はア・ビームからやや上りの風でスピニアップに悩む。後続艇のアルミスが徐々に差を詰めてきたので、迷わずスピニアップをしてフィニッシュへとぶっ飛ばす。結局このスピランが2位のアルミスに修正僅差で1位を取れたのものと思います。

今回の佐久島レースはいろいろと状況が変わり最後の最後まで我々もとても優勝は無理と思っていたのが、修正結果をみたら何と優勝。本当にビックリしたと同時に最後の最後までやはり丁寧な走りをしなくてはとあらためて感じたレースでした。関係者の方々にあらためてありがとうございました。



スーパーウェーブの航跡

今年のレースも残り2レース
ホーネットとダンシング
ビーンズが僅差で争っている。

3位争いは
オデッセイとアルミス
こちらも僅差の争い
気の抜けないレースが
続きます。

9月スモールレース優勝

ホープ 南原

台風が小笠原近海に有り、やや強い西風が吹き込む朝であった。一時期の真夏のような残暑が収まり、風も冷たく感じられる。セールはヘビーを選択。ライトセールは来年までお蔵入りになりそう。海陽で艇を下架してマリン広場へ回航すると同時に、船台も海岸の遊歩道を通って手押しで移動。いつもながらこの作業には時間がかかってしまう。

今日のホープは3人。見渡すと、アヤもハニービーも4人のようだ、この風では不利かなとの思いが頭をよぎる。それに、艀装がすこし遅れ気味で焦る。艇長会議は北河さんに任せきりで、コースだけは確認しておく、スタート竹島マーク小島ブイ竹島マークフィニッシュである。

ブイを打つヴァイキングとハニービーに続いて、出港。朝方と変わらず北西よりの風、吹き出しがわかりにくいえに、振幅が大きく苦戦しそうだ。スタートラインに寄ってみると、スターボードのエンドである赤灯台が有利ではあるが、防波堤が続いているため近づけるのは難しい。しかし、アウターマークへ逃げるとかなりのロスとなりそうで、やはり基本的には赤灯台付近に狙いを設定。4・5回アプローチを確かめていざ本番。20秒前までポートで我慢して赤灯台に寄せてタック。1分以上前からスターボで待ったアヤやハニービーよりも良い位置でスタートできた。



ウェザーマークまではほぼクローズ一本、全艇差が出ないかと思いきや、アウター側からスタートしたアヤとハニービーの上り角度が良くない。たった30m程度の位置の差だが風が違ふようだ。ホープの真後ろになってしまったヴァイキングにも先行する形で竹島マークをトップ回航。

続く小島ブイまではほぼランニング。竹島マークを回航してからスピンの準備をしたため、観音開きのヴァイキングに追い越されてしまうが、あわてず追いかけていこう。小島ブイ前のスピンドウンもかなり早くに着手。トラブル無く確実に2番手で回航できた。

2回目の竹島マークまではまた極端に触れる風、たまた、岸付近とは風軸が違うようだ。最初のタックは良くなくて後続に寄せられたが、再度岸に寄せたのが良く、先行するヴァイキングに近づきマーク回航へ。回航は同じコースとなった6月を思い出しアンチクロック・・・と思って回ったらホープ以外はクロック回り。艇長会議で明確になってなかったらしいです。その後フィニッシュまではスピンラン、結果、2着で修正して1位となりました。

これで年間ポイントも稼げましたが、スモールの年間総合優勝は10月の結果次第の状況。人数を揃えてランナーと2艇が理想ですが、果たしてどうなるでしょうか。



9月までの累計成績表、(年間成績は捨てレース2レースあり)

	合計		4月		5月		6月		7月		8月		9月	
	得点	順位	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
バイキング	44.5	1		0	1	10.25	3	8	1	10.25	2	9	4	7
ホープ	36.75	2		0		0	1	10.25	C	6	1	10.25	1	10.25
ハニービー	33	3		0		0	2	9	3	8	3	8	3	8
あや	24	4		0		0	5	6	2	9		0	2	9
メーベ	21	5		0	2	9	6	5		0	4	7		0
リトルウィンディー	13	6		0		0	4	7		0		0	C	6

MCC海のたよ10月号MCC海のたよ10月号MCC海のたよ10月号

今年も沢山の
スナメリに
会えました。



海の日記念の体験乗船でも
スナメリに会えました



波の間に戯れ奔るスナメリの
並びで一瞬船底に消ゆ



またたく間みえて隠るスナメリの
背いきいきと日に輝けり



船を追うスナメリ二頭並びおり
潮吹く音の強たくまじし

MCC海のたよ10月号MCC海のたよ10月号MCC海のたよ10月号

会員艇の紹介「アクアマリン」グループ

今回は会報担当中村が所属するアクアマリングループを紹介します。

アクアマリンGは蒲郡高校のヨット部同級生が主体のグループです。伊勢湾台風の年、昭和34年4月に蒲郡高校入学時からの付き合いで今年50年になります。

卒業後にスナイプを建造、美香と命名、チタGを意識してミカGを誕生させました。

1963年20歳の年に借金をしてカリニタ級(20f)のグループオーナーに、27歳の年にはFBⅢ(30f)51歳の1994年から現ヤマハ31Sと乗り継ぎました。

現在のオーナーメンバーは中村(中電OB)広浜(中電OB)竹内政(元市議、海鮮業)大竹(高圧ガス業)三浦(税理士)竹内昭(そば店)の同級生6人、三河湾のクルーザー最古参のグループです。



新年会の集合写真



十六夜の宴、いい月でした



恩師栗屋先生

ミカG

アクアマリンの航跡

現MCC設立前は広浜が、設立後は中村が事務局、副会長、会長を歴任してきました。

2, 30歳代、昭和4, 50年代が一番の活動時期でした。MCC、旧NORCレースでの活躍、ヤマハレースでの頑張りもありました。60歳代の最近は5月、8月にクルージングする以外はメンバーと一緒に乗る機会は少なくなりましたが、アクアマリン名付け親の恩師とともに夫婦揃ってのグループ親睦活動が長く続いています。

また、三後夫人が元アクアマリンのクルーであったことから夫婦揃っての交流が続いています。今回は中秋の名月を愛でようと10月4日、旧暦の8月16日、形原漁港に係留するアクアマリンで月見の宴を開き楽しい時を過ごしました。

昨年末にはミカG、アクアマリンの航跡50年をまとめ、若き日の思い出がよみがえりました。過去にはアクアマリン1世も2世も八丈島へクルージングしています。3世ではまだ行っていませんので機会があればぜひ挑戦したいと思っています。

MCC海のたより10月号MCC海のたより10月号MCC海のたより10月号